「ほあけぼのちいあ」の　つれづれ

花があることば

　最近ある有名な先輩からこの欄への投稿を楽しみにしていると嬉しい便りをいただいた。頭に乗って恥ずかし気もなくまた駄文を・・・・・悪しからず。
ずーっと以前から目にしたり耳にしたのを綴ってみる。
一人でも一つでも　ソウソウ　ソダネ　と頷いていただけたら嬉しい。

　花は大抵の人は好きだと思う。中には好きではないとかもしかしたら嫌いという人もいるだろうか。私はといえば勿論好きだが、花の名前は鳥の名前を雀とカラスぐらいしか知らないと同じくらいしか知らない。

- **欲ばりの花**
  梅の香を　桜の花に匂わせて　柳の枝に咲かせてみたい
  （榎本勝起　ＴＢＳラジオ）
- **花**
  願わざれども　花は咲き　願へども花は散る　（佐々木達磨　笠松町　法傅寺）
- **花・人**
  年年歳歳　花相似たり　人同じからず　（唐詩選）
- **梅・桜**
  奈良時代から平安初期までは 花 といえば「梅」それ以降は 花 といえば「桜」を指した。　(牧太郎　毎日新聞)
- **桜**
  咲く桜　散る桜も　皆桜
- **桜の敵**
  桜の敵は桜、人の敵は己　（榎本勝起　ＴＢＳラジオ）
- **桜　・　もみじ**
  春の桜の花びらは、先に咲いた花から散ってゆく。
  秋のもみじの紅葉は、色の濃い葉から散ってゆく。（榎本勝起　ＴＢＳラジオ）
- **もみじ**
  裏を見せ表を見せて散るもみぢ　（散るという言葉が死に重なっていろ。）
  形見とて何残すらむ　春は花　夏ほととぎす　秋はもみぢ葉　（遺言のような歌）
  （良寛）
- **柳も花**
  「花柳界」という言葉は宋代の文人・蘇東坡（そとうば）が詠んだ禅語「柳緑花紅」に由来。中国では遊女のいる地域を「花街柳港」といった。
  柳は「無花被花」雌雄異株。花らしくない花。裸花ともいう。
  (牧太郎　毎日新聞)
- 生物ではないが　**カンナ（鉋）の花**
  カンナで削った木は水に濡れない。しかも（浸みた）水がよく乾く、腐らない、しかも息ができる。(塗装した木は息ができない。)(小川三夫　法隆寺宮大工棟梁)

- **好きな漢詩**

良寛　　花無心招蝶　蝶無心尋花　花開時蝶来　蝶来時花開　吾亦不知人
人亦不知吾　不知従帝則

ハナムシンニテフヲマネキ　テフムシンニハナヲタズネル
ハナヒラクトキテフキタリ　テフキタルトキハナヒラク
ワレマタヒトヲシラズ　ヒトマタワレヲシラズ　シラズシテテイソクニシタガフ

ー この詩が好きで子供たち皆に結婚のとき色紙に書いて贈った。ー

- **好きな歌（花の街）** 江間章子 詩 / 壇伊玖磨 曲

七色の谷を越えて　流れていく　風のリボン　輪になって　輪になって
かけていったよ　春よ春よと　かけていったよ
美しい海を見たよ　あふれていた　花の街よ　輪になって　輪になって
踊っていたよ　春よ春よと　踊っていたよ
すみれ色してた窓で　泣いていたよ　街の窓で　輪になって　輪になって
春の夕暮れ　ひとりさびしく　泣いていたよ

ー メロディをご存知の方はお口ずさみください。－

- **花 匂い**

花は咲いているだけではダメ、匂いを出さなければ人は寄って来ない。
（瀬戸内寂聴）

- **完全花・不完全花**

「完全花」は萼（がく）、花弁、雌蕊（めしべ）、雄蕊（おしべ）が全部そろっている花。　「不完全花」は萼、花弁、雌蕊、雄蕊のひとつ以上が欠けている花。
(牧太郎　毎日新聞)

ー 花の主役は花弁で、花の名前や見分けを付けている。－

ー 有名な尾瀬に群生する水芭蕉の花、美しい白いところは主役の花弁ではなく脇役の萼だそうだ。ー

- **表現の機微　　梅・桜・椿**

梅はほころぶ、桜は咲く、椿はひらく。
梅はつぼむ、桜は散る、椿はおちる。

- 蛇足

小生のお墓、手前味噌ながら、墓碑の花壇には胡蝶蘭を彫った、墓石の横には彼岸花を数株植えたのが結構似合っていて気にいっている。
花壷にはときどき切り花を生けている。小生がここへ入った後も誰かが生けてくれていたら泉下で嬉しいのだが。

最後までお付き合いくださいまして誠にありがとうございました。今回・おしまい。